

科目ナンバリング		U-LAS01 10001 LJ38							
授業科目名 <英訳>	日本史 I Japanese History I			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 吉江 崇				
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)	歴史・文明(基礎)		使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2026・前期		曜時限	月2/月3		配当学年	全回生	対象学生	全学向

### [授業の概要・目的]

#### 【日本古代の国家と政治 - 律令国家への道程 - 】

日本における古代国家の様相を政治史という側面から把握し、古代日本の特質について理解することを目的とする。今期は、律令国家が形作られていく6世紀末から7世紀後葉にかけての政治動向を取り上げ、先行学説を紹介するとともに批判的に検証を行う。こうした作業を通じて、国家の様相やその変遷を客観的に捉える視座を養うことを目指す。

### [到達目標]

日本古代史における正確で幅広い知識を獲得するとともに、これまでの研究の流れを自分の力で整理し、それらを客観的・批判的に把握して、自らの歴史像を組み立てるための技術を習得する。

### [授業計画と内容]

7世紀後葉に成立した日本の律令国家は、唐から導入した律令制を基盤に置いた国家だった。先進的な制度・技術・文化を輸入した一方で、古墳時代以来の古来の伝統が色濃く残っていたことも見逃すわけにはいかず、先進性と未開性が交錯するところに、日本の律令国家が登場したといえる。今期は、そうした日本の特質を把握することを目的に、律令国家の形成過程について順を追って概観する。まずは推古天皇の時代の政治改革を整理し、天皇による支配体制の構築について検討する。次いで、大化改新の歴史的位置を確認するとともに、東アジアの動乱や皇位継承の争いが律令国家の形成に与えた影響について考察する。最後に、律令法の整備過程を法体系の受容・改変という点に着目しながら紹介し、日本の律令国家の特質を把握することにつとめる。

第1回 イントロダクション - 古代国家と古墳時代 -

第2回 推古天皇の時代(1)

第3回 推古天皇の時代(2)

第4回 天皇号の成立(1)

第5回 天皇号の成立(2)

第6回 大化改新の歴史的位置(1)

第7回 大化改新の歴史的位置(2)

第8回 東アジアの動乱と防衛体制の構築(1)

第9回 東アジアの動乱と防衛体制の構築(2)

第10回 皇位継承争いとしての壬申の乱(1)

第11回 皇位継承争いとしての壬申の乱(2)

第12回 律令法の整備過程(1)

第13回 律令法の整備過程(2)

第14回 総括

《期末試験》

第15回 フィードバック

日本史 I (2)

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点]**

期末試験（筆記）にて成績評価する。

**[教科書]**

使用しない  
授業中にプリントを配布する。

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

シラバスなどを通じて授業の進行を確認し、各回の授業内容を想定しながら予習をすること。

**[その他（オフィスアワー等）]**

授業は講義形式で行う。

**[主要授業科目（学部・学科名）]**

総合人間学部